



ぐんぐん すくすく！相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘 4 丁目 5-5
電話 0791-23-5070
FAX 0791-22-7211
E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp



◆相生市内小中学校で「ケータイ・スマホ教室」開催中です。

本年度も市内小学5，6年生(444人)と中学3年生(230人)を対象に、5月12・28日、6月11・25日の計4日間で全10回の『ケータイ・スマホ教室』を実施しています。

指導していただいているのは、兵庫県立大ソーシャルメディア研究会の大学生と警察の刑事さんです。

5月12日(月)

左から
青葉台小
相生小
那波小



5月28日(水)

左から
双葉中
那波中
矢野川中



※残り4校の様子と授業内容については7月号で紹介します。

「信頼」はいざというときに効く

生徒指導に関してはたくさんの苦勞をしてきました。
ある生徒に指導しなくてはいけない場合で、その子を叱っても諭しても、なかなか思いが伝わらない。こっちの言うことを素直に聞いてくれない。「難しいなあ」そう思いながら、いろいろな言い方をしてみるのですが、やっぱりどうも伝わっていかない。

ところが、他の先生に手伝ってもらったら、つまり他の先生に話をしてもらったら、急に素直に聞くようになり、深く反省もして、その日は「頑張ります」と言って帰っていきました。このとき、言っている内容自体は、自分とその先生とあまり違いはなかったのです(正直なところ、その先生の方が格段に上手に言っているわけでもないようでした)。

「なぜあの生徒は、私の言うことを聞かないのにその先生の言うことは素直に聞くのだろう？」すこし腹も立ちましたが、それよりも、どうしてなのかが気になり、真面目に考えてみました。

出た結論は、やはり「その先生のことが好きかどうか」ということでした。見方を変えれば、それまでに至る普段の生活でその生徒との「良い関係」をつくってきたことが、いざというときの生徒の反応に影響したということなのです。

もちろん、「誰の言うことも素直に聞かないとダメだよ」と指導することは大切ですし、そのように素直な子になってもいいと思います。しかし、人はそんなに簡単なものではないはずで。

「きらいな先生の言うことは聞きたくない」というのは感情的なことなので、理屈ではいけないとわかっている子ども、なかなか変えることはできません。やはり大事なものは、そのときまでに、「良い関係を築いておく」ということなのだ実感した出来事でした。

「なぜかきらいな生徒指導」(前 哲央著 東洋館出版社)より

拍手ができる子は伸びる。

拍手は「相手を認める心」を表す。

相手の姿勢、がんばり、良いところ。

これを心から認められる子の

拍手は温かい。

拍手にその子の想いが乗り、

運ばれてくる。

言葉がなくても

それはしっかりと伝わる。

拍手は「認める心」を表す。

劣等感を抱いている子は

拍手ができない。

自分を中心にしか物事を

見れない子の拍手は重い。

拍手ができる子は伸びる。

相手の喜びを自分の喜びのように

感じられる。

相手を認めて、

心から賞賛を送ることができる。

それが巡り巡って

その子のもとに返ってくる。

だから自然にその子は伸びていく。

拍手は「相手を認める」練習。

私はお母さんと子どものカ
ウンセリングを始めました。
話を聞く中で、このお母さ
んがこれまでどのような状
況だったのかが分かってきま
した。

このお母さんは妊娠8か
月の時、その子の父親との関
係が終わりしました。

だから、正直産みたくな
かったし、育てられる自信も
なかった。でも産む以外の選
択肢を取れる時期をとうに過
ぎていたので、産まなければ
ならなかった。お母さんはそ
んなことを話してくれました。

「親は子どもを愛して当
たり前」と言われます。でも私
は必ずしもそうではないと思
っています。

親は、「親になった」だけ
で子どもを慈しむことはでき
ません。だから、親が子ども
を慈しむことができるように、
社会のみんなが子育てを支え
て、助けてあげる必要がある
のです。

その後、私もカウンセリ
ングを繰り返して、今後の方
針を決断する時がやってきま
した。施設か、家庭引き取り
かの決断をするということ
です。

「今の素直な気持ちとし
て、どうしたらいいと思いま
すか？」とお母さんに尋ねま
した。

するとお母さんは、「あの
子連れて帰りたい」と言いま
した。

私はとても驚きました。最
初にあつた時のお母さんの反
応を覚えていたので、「きつと
お母さんは『子どもを施設へ』
という決断をされるのではない
か」と思っていたからです。

「彼を家に連れて帰って本
当に大丈夫か」と、学校や地
域の人たちから心配の声が上
がりました。

でも、「彼が一番住みたい
人と住みたい場所で暮らせる
暮らしをみんなで支援しよう」と
確認し、支援体制をしっかり整
え、お母さんもそれを全面的に
受け入れてくれたので、家庭へ
の引き取りが実行されること
になりました。

子どもが母親と家に帰る
日がやってきました。

私は、少し躊躇する彼の背
中に手を当てると、目の前に
立つお母さんのほうに少しだけ
押し出してあげました。

その動きを見たお母さんは
彼にそっと歩み寄り、彼の両
腕をギュッと握りしめて言
いました。

あの日、あなたのことを置
いて帰って、連れて帰らなくて、
本当にごめんね。

お母さんは今までたった一
人の子育てで、あまりにも大
変です。

ぎて、正直『あなたさえい
なければ、私はもっと自由に
生きられるのに』と、そう思
いがらあなたのことを育てて
きた。

だけどお母さんは、この3
カ月間家で一人で過ごして、
あなたのいない毎日がどれ
だけ寂しいか、どれだけ空
しいかが痛いほどわかった。

また、以前のダメなお母
さんになつちやうかもしれない
けど、お母さんと一緒に家に
帰ろう！

すると、それまで一滴の
涙も流さなかった彼の目から、
すーっと一筋の涙がこぼれ
ました。一旦こぼれだすと、
堰を切ったように涙が溢れ
だし、止まらなくなりました。

彼は顔をくしゃくしゃに
しながら、いつまでもお母
さんにしがみついて泣きま
した。

私は、普通の親子が迎える
「生まれてきてくれてありが
とう」の瞬間を、この親子は
この時初めて迎えることが
できたのだらうと思いました。

こんな私も、実はずっと
自分の子どもを両親に任せ、
よその子のためにいつも家
を空けて、駆けずり回るよう
にして働く母でした。

「ママ、今日何時に帰って
くる？」とわが子から聞か
れるた。

びに、働く親のもとに生ま
れてかわいそうな思いをさせ
ている自責の念や、罪悪感を
感じながら子育てをしてき
ました。子育ては親だけに重
圧をかけてはいけません。社
会や地域全体で子どもを育
てていくという意識や環境
が大事です。ですから、な
るべく地域の大人たちは、
機会を見つけて子どもたち
とハイタッチや、目と目を
合わせてあいさつをして、
子どもたちの名前をたくさん
呼んであげてほしいと思
います。プラスの関わりを
たくさん心がけていただ
きたいです。



【ほりい・ちほ】
児童養護施設勤務を経て、福岡県警察本部
北九州サポートセンター勤務。延べ2000
人の非行少年と向き合う。現在はフリー
の立場で子ども相談、講演活動を行う。
著書に『非行少年たちの神様』『青
灯社』がある。

(日本講演新聞 2025 年 2 月 17 日号より抜粋)